

## 2 「重点教育目標」の解説

重点教育目標について、設定の趣旨や目標内容の理解と協力を図ることを意図して、次の五つの角度から解説した。

### ① 足利市の地域性

重点教育目標は、足利市の地域性に根ざした目標の設定を意図している。そこで、足利市のもつている歴史的な背景や文化的な伝統、足利の市民性などの角度から解説した。

### ② 市民憲章との関連

重点教育目標が足利市民の指標である市民憲章とどのようなつながりになっているかを解説した。

### ③ 市民の意識や実態

人生各期にわたる教育目標設定を意図した1次調査、2次調査、中間発表会でのアンケート調査などの結果に加え、重点教育目標設定のための参考資料を得た中間報告会でのアンケート調査結果及び、意見を聴く会での聴取事項などについて解説した。

なお、中間発表会、中間報告会、意見を聴く会におけるアンケート設問数は次の通りである。

#### ＜中間発表会＞

目標内容を集約した内容数

22

#### ＜意見を聴く会＞

人生各期にわたる教育目標(案)数

72

### ④ 行政等の取り組み

足利市の教育目標が生きてはたらくためには、主体者の一人でもある足利市行政の主体的な取り組みが大切である。

そこで、足利市振興計画との関連について解説した。

さらに、「足利市の特色あるまちづくり」等の各種の報告書、答申書についても解説した。

### ⑤ 目標設定委員会として強調する理由

市民の意識や実態、教育の将来の方向など、重点教育目標として取り上げた根拠について解説し、また、人生各期における各主体者の取り組み方などについて解説した。

## II 「足利市の教育目標」の解説

教育目標番号1 郷土の自然や文化に親しみ、その保護・発展に努める。

目標達成の時期 [児童期～高齢期]

○ この目標の達成目標、具体策、目標達成の場とそのかかわりは 22～25ページ参照

### 重点教育目標として取り上げた理由

観 点	解	説
足利市の地域性	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 足利市は、日本最古の足利学校があり、昔から学問の盛んなまちとして伝えられている。また、ばん阿寺に代表される幾多の歴史的な文化財や伝統的な文化に恵まれたまちである。 一方、足利市は、美しい自然に恵まれ、四季折々の山水の美は、すばらしい。</li></ul>	
市民憲章との関連	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 市民憲章においても「足利市は日本最古の学校のあるまちです。」——教養を深め、文化のかおり高いまちをつくり、すぐれた伝統を発展させましょう。 「足利市は美しいまちです。」——めぐまれた自然を愛し、清潔で健康なまちをつくりましょう。—— に直接つながる目標である。</li></ul>	
市民の意識や実態	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 1次調査及び2次調査の結果では、「郷土の自然や文化を大切にしましょう。」という市民の意識は高いが、「郷土の自然や文化について理解し、それらの保存、継承に努めている。」という市民は少なく、実態は低く出ている。</li><li>○ 中間発表会のアンケート結果では、この目標の支持率は高く出ている。（壮年期は56%で1位、青年期は52%で4位、児童期は42%で7位） また、自由記述の中で、「郷土の自然を愛する心を育ててもらいたい。」、「足利学校は、市民のふるさとである。」などの意見もある。</li><li>○ 中間報告会のアンケート結果では、この目標の支持率は、30%で</li></ul>	

観 点	解	説
市民の意識や実態	<p>14位であるが、意見を聞く会での支持率は57%で、目標全体の中で8位となっている。</p> <p>また、その際の意見として、「郷土や文化遺産に対する市民の関心は低いようである。」、「足利学校のあるまちにふさわしい中味が欲しい。」、「伝統的なものを大切にしない傾向も見られる。」などもある。</p>	
行政等の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 足利市は、国土庁から伝統的・文化的都市環境保存地区整備事業計画の都市に指定され、足利学校やばん阿寺の周辺の整備を手がけている。</li> <li>また、市民が豊かな自然や文化に親しめるために、自然の保護と開発の調和、みどりのマスター・プランの推進、郷土の優れた文化財の保護・活用、伝統的文化の継承・発展に努めている。</li> <li>○ 一方、この目標に関するものとして、特色あるまちづくり推進研究会議の報告書（55・3）における「市民文化への提言」や「歴史的建造物等の保存」、商工会議所の新しい地域行動の方向（55・3）における「伝統的な祭りについて」等が提言されている。</li> </ul>	
目標設定委員会として強調する理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 人間性豊かな生活を営むためには、様々な文化的活動に、自主的、創造的に参加することが大切なことである。</li> <li>○ 足利市には、恵まれた豊かな自然と祖先によってはぐくまれた歴史と文化が生きづいている。</li> </ul> <p>私たちは、それらを毎日の生活の中に生かし、精神的に豊かな生活を送るとともに、それらを大切にし、これからの人たちに伝えていくことは、「歴史と文化のまち足利」に住む者にとって、大きな課題であり、使命でもある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 以上のことから、郷土の自然や文化についての理解が芽ばえる児童期から、それらの保護・発展に努める青年期及び壮年期、そして、若い世代にそれらを伝える高齢期において強調されるべき教育目標として設定した。</li> </ul>	

## II 「足利市の教育目標」の解説

教育目標番号 5 スポーツを通して心身を鍛え、自らの健康管理ができる。

目標達成の時期 青年期

○ この目標の達成目標、具体策、目標達成の場とそのかかわりは 29~30 ページ参照

### 重点教育目標として取り上げた理由

観点	解説
足利市の地域性	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 足利市は、自然に恵まれた美しいまちである。しかも、スポーツを楽しむための各種運動施設が比較的充実している。</li><li>○ そのためスポーツを愛する市民が多く、スポーツを通して心身を鍛え、健康の増進に努めている。</li><li>○ それらが、健康的で明るい市民性や明るいまちづくりの基盤にもなっている。</li></ul>
市民憲章との関連	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 市民憲章においても「足利市は美しいまちです。」 ——めぐまれた自然を愛し、清潔で健康なまちをつくりましょう。——に直接つながる目標である。</li></ul>
市民の意識や実態	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 1次調査の結果では、「自分の健康について、自分自身で管理すること。」、「自分の体力、能力に最も適したスポーツを選び、運動を楽しむこと。」について、市民は年代別、性別にかかわりなく重視している。また、自由記述の中で、「趣味としてスポーツをもつことは、心身の健康に非常に大切である。」、「現在の青年は非常に体格はよいが、体力がない。」、「スポーツを通して体力をつけることによって、肉体的にも精神的にもたくましくなり、人生における社会の荒波を乗り越えることができる。」などの意見もある。</li><li>○ 中間発表会のアンケート結果では、この目標の支持率は、66%で1位であり、年代別、性別にかかわりなく意識が高い。</li><li>○ 中間報告会のアンケート結果では、この目標の支持率は、74%で1位である。意見を聴く会での意見として、「心身ともに健康であることが、物事を直視できる基本である。」、「スポーツを愛するまち</li></ul>

観 点	解	説
市民の意識や実態	にしたい。」などもある。	
行政等の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本市は、豊かな自然に恵まれ、それをを利用しての「野外教育活動施設の整備」、「地域の体育施設の整備」とスポーツ活動の振興に努めている。（総合運動場、市民体育館、勤労者体育センター、身体障害者スポーツセンター、足利サンフィールド、河川敷利用の運動場、各小中学校の校庭、体育館の開放、サイクリングロード、オリエンテリング等）</li> <li>○ スポーツを通して心身を鍛え、健康増進のため各種事業を実施している。（地区体育祭、各種スポーツ市民総合選手権大会、ハイキング大会、オリエンテーリング大会、各種スポーツ教室等）</li> <li>○ 日本伝統スポーツの振興と武道館の建設及びスケート場の建設が望まれる。また河川敷、山を利用しての運動施設の整備も必要である。</li> <li>○ 学校体育において、スポーツを楽しみ、生涯体育の素地づくりに努めている。</li> <li>○ 社会体育において、指導者の育成と各種スポーツクラブの育成に努めている。</li> <li>○ 国体開催を契機として、これからますます市民各層にスポーツを普及し、スポーツ精神を高揚して、健康の増進と体力の向上を図ろうと努めている。</li> </ul>	
目標設定委員会として強調する理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 生活圏の拡大、産業の発展、生活様式の変化などにより、疾病の増加もみられるが、「自分の健康は自分で管理する。」といった積極的な姿勢が特に必要である。</li> <li>○ 国体を契機として、市民が運動を楽しみ、たくましい体と根性を備えた健全な生活の高揚を図る必要がある。また、日常生活の中で、栄養、運動、休養のバランスのとれた生活を営むことが大切である。</li> <li>○ 以上のことから、生涯にわたっての健康な生活は、生きがいのある人生を営む上からも大切である。その基盤である生涯スポーツの素地づくりとして、心身ともに発達の最も著しい青年期に強調すべき教育目標として設定した。</li> </ul>	

## II 「足利市の教育目標」の解説

**教育目標番号 14** 個人または団体の利害だけにとらわれず、全体との調和を図っていくことができる。

**目標達成の時期** 青年期～壮年期

○ この目標の達成目標、具体策、目標達成の場とそのかかわりは 40～42ページ参照

### 重点教育目標として取り上げた理由

観 点	解	説
足利市の 地域性	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 足利市は、経済的に東京との結びつきが強いことや、県境に位置しているため他地域との交流も盛んである。そのため市民は、よそもの意識が少なく、一般に明るく、親切である。 また、中央の動きには敏感で、すぐ反応するなどの行動力をもつ反面、実利主義の傾向もみられる。</li></ul>	
市民憲章 との関連	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 市民憲章においても「足利市は 善意のまちです。」—理解と信頼をもって、みんなのしあわせのためにお互いに助け合いましょう。—に直接つながる目標である。</li></ul>	
市民の意 識や実態	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 1次調査及び2次調査の結果では、「他人の立場を十分理解して社会的義務を快く受け入れること。」や「自由と責任の関係や権利と義務の関係について十分学ぶこと。」を市民は重視しているが、実態は低い。</li><li>○ 中間発表会のアンケート結果では、この目標に対する支持率は青年期が33%，壮年期が33%となっている。また、自由記述の中で「自分ばかりでなく、他人のことを思いやる心をもって行動する。」などの意見もある。</li><li>○ 意見を聴く会ではこの目標に対する支持率は、50%と高く、その際の意見として「利己的である。」「連帯感が薄い。」「自分のところさえ良ければよいという狭い意識が強い。」などもある。</li></ul>	
行政等の 取り組み	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 足利市は、市民自らの手により住みよい地域社会づくりをするというねらいで、53年度に西校地区、御厨地区をモデルコミュニティー</li></ul>	

観 点	解	説
行政等の取り組み	<p>地区として指定し、地域連帯感の推進をしている。また、54年度より三重地区を「コミュニティーケア推進事業」推進地域に指定し、福祉サービスを必要とする人々が、地域の中で在宅のまま生きがいのある生活ができるように行政、民間社会福祉事業、地域の住民の三者が一体となって援助する福祉活動を推進している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 56年度よりの後期振興計画の新しい柱として「地域の連帯をめざして」が取り上げられている。また、市に特色あるまちづくり推進研究会議を53年より発足させ、「心の触れ合うまち」を求め研究し推進している。</li> <li>○ 社会教育では、公民館の家庭教育学級、婦人学級、青年学級などにおいて、地域連帯感や地域形成者としての役割と自覚を高めることをねらいとした学習課題を用意し、啓発に努めている。また、県での新長期総合計画で「連帯感あふれた人間性豊かな地域社会栃木県」を築きあげるための次の諸事業を本市の教育行政の中で、合わせて実施している。 <ul style="list-style-type: none"> <li>1) 青少年地域活動（ふるさと運動、仲間づくり、奉仕活動）の促進事業。</li> <li>2) P T A 地域活動の促進。</li> <li>3) 婦人ボランティア活動の促進。</li> </ul> </li> <li>○ 商工会議所の新しい地域行動の方向（55・3）の中で、行政との接点と協同すべき領域として「住民の連帯感の高揚とふるさとづくり運動の推進」をあげ、足利まつりなどを通じて魅力ある地域社会形成のためのコミュニティー活動を行っている。また、青年会議所も「明るい豊かなまちづくり」の推進を目指して、各種事業を実施している。</li> </ul>	
目標設定委員会として強調する理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 個人的あるいは自分の所属する団体の利益を追求するあまり、社会全体の向上まで広げて考えない傾向がある。社会をよくすることは、自分を含めて全体の生活をよくすることであるとの認識をもつことが大切である。</li> <li>○ 青年の実態をみると、自分本位の考えが強く、権利や自由を強く主張する傾向がみられる。集団の中の個人としての社会的義務、社会的に責任ある行動やそれを成し遂げる態度を身につけることは大切である。</li> <li>○ 以上のことから、ここでは特に、地域の実践活動の中心的役割を果たす青年期から壮年期において強調されるべき教育目標として設定した。</li> </ul>	

## II 「足利市の教育目標」の解説

### 教育目標番号 24

道徳的な態度を身につけ、実践することができる。

#### 目標達成の時期

児童期～壮年期

○ この目標の達成目標、具体策、目標達成の場とそのかかわりは 51～53ページ参照

#### 重点教育目標として取り上げた理由

観 点	解	説
足利市の地域性	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 足利市は、首都東京の強い影響下にありつつも、豊かな自然と伝統ある歴史に包まれ、伝統的な織維工業をもち、長い間独自の文化圏を形成して來た。</li><li>○ 足利市民は、一般に明朗、気さくで、開かれた都会的な面をもっており、親切で温かく進取の気質に富んでいる。一方、地域連帯感が希薄で、実利的傾向が強く、人間の生き方、心の豊かさなどが課題でもある。</li></ul>	
市民憲章との関連	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 市民憲章においても「足利市は善意のまちです。」 —— 理解と信頼をもって、みんなのしあわせのためにお互に助け合いましょう。—— に直接つながる目標である。</li></ul>	
市民の意識や実態	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 1次調査の結果、児童期においては「正直で忠実に、責任感のある行動をとること。」「グループ、学級、学校などの規則を尊重し、守ること。」をほとんどの人が重要と答え、「困った人や弱い人へ援助の手をさしのべる。」「正しい行動を決めるのに、他人に対する配慮も忘れないし、義務も忘れない。」「進んでみんなのためになることをする。」について多くの人が重要であると答え、道徳性に関する内容は、児童期において最も重視している。自由記述では、「近所の人や知人へのあいさつ」「責任感のある人間に」「道徳教育の重視を」「善惡の判断ができる子に」「他人に迷惑をかけない子に」「情操豊かな子に」とこれに関係した意見が多い。</li><li>○ 青少年においては、本目標に関係する「道徳、宗教の問題」「道徳的な信念、考え方の柔軟性」についての市民の関心は極めて低い。</li></ul>	

観 点	解	説
市民の意識や実態	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 2次調査の結果、児童期においては「グループ、学級、学校などの規則を尊重し、守ること。」についての実態は51%と高いが、青年期においては「道徳、宗教の問題」、「道徳的な信念、考え方の柔軟性」についての実態は4%と極めて低い。</li> <li>○ 中間発表会のアンケート結果では、この目標に対する市民の支持率は、児童期で41%，青年期で35%，壮年期で34%である。また自由記述の中に、児童期では「広い意味での思いやり、温かい心を身につけることが大切である。」青年期では、「青年期における道徳心のかん養を図る必要がある。」壮年期では「自分ばかりでなく、他人のことを思いやる心をもって行動することが大切である。」などの意見もある。</li> <li>○ 中間報告会のアンケート結果では、この目標の支持率は62%で2位である。</li> </ul>	
行政等の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学校教育では、学校教育活動全体を通して、道徳教育を行い、教師と児童・生徒及び、児童・生徒相互の人間関係を深めるとともに、家庭や地域社会との連携を図りながら、日常生活の基本的行動様式をはじめとする道徳的実践の指導の徹底化に努めている。</li> <li>○ 社会教育では、家庭教育学級、夏期市民大学、青年教養大学などの場において、道徳性を高めるための講座を設けている。</li> <li>○ 国体を契機として、住みよいまちづくりを目指し、クリーン運動など市民運動を展開している。</li> </ul>	
目標設定委員会として強調する理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「人間性豊かな人づくり」を考える時、知、徳、体の調和のとれた人づくりが重要であり、基本である。教育的基盤として道徳教育を重視すべきである。</li> <li>○ 多様な価値観の社会を展望した時、道徳的に優れた行いができるよう、自らの道徳的実践力を高めるとともに、柔軟な見方、考え方を養い、自分の行動を決めることができる必要がある。</li> <li>○ 児童期から道徳的態度の素地を養うことが大切である。</li> <li>○ 壮年期での実践、親が自ら範を示すことは重要であり強調したい。</li> <li>○ 以上のことから、児童期、青年期、壮年期を通して強調される教育目標として設定した。</li> </ul>	

## II 「足利市の教育目標」の解説

**教育目標番号 29** 同和問題を正しく理解し、不合理な差別や偏見のない社会の実現に努める。

**目標達成の時期** **壮年期～高齢期**

○この目標の達成目標、具体策、目標達成の場とそのかかわりは 57～58ページ参照

### 重点教育目標として取り上げた理由

観点	解説
足利市の地域性	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 足利市民は、一般に明朗で気さくな面があり、おおむね親切で温かく進取の気質に富んでいる。その反面、連帯感が薄く、自分さえよければという狭い意識が強いところもある。</li><li>○ 足利市の同和地区は、混住である。</li><li>○ 足利市は県境のため、同和問題の理解についても他県の影響を受けている。</li></ul>
市民憲章との関連	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 市民憲章においても「足利市は善意のまちです。」 —— 理解と信頼をもって、みんなのしあわせのためにお互いに助け合いましょう。 —— に直接つながる目標である。</li></ul>
市民の意識や実態	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 中間発表会のアンケート結果では、同和問題の基盤となるものとして「公民としての社会的役割を自覚し責任ある言動をとることができる。」の支持率は、壮年期は 48% で 5 位、高齢期は 24% で 11 位となっている。</li><li>○ 同和問題についての市職員の意識調査（昭和 54 年 9 月実施）結果では、「同和地区や同和問題のあることをいつごろ知りましたか。」については、小学校時代が 32%，中学校時代が 18%，高等学校時代が 16%，20 歳すぎてが 14% の順になっている。また、「同和地区や同和問題のことを、はじめて知られたのはだれですか。」については、父母が 28%，学校の友人が 17%，市の広報や書物が 10% の順になっている。</li></ul>

観 点	解	説
行政等の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本市では、市民的課題として全庁あげて同和問題の解決に取り組んでいる。足利市同和対策総合計画を作成し、同和対策事業の推進はもとより、心理的差別の解消を教育の面からさせまろうとする同和教育も意欲的に推進している。</li> <li>○ 同和教育については、同和教育の基本方針を定め、同和教育推進本部を設け、総合的な計画を立て、この教育が推進されるよう努めている。</li> <li>○ 特に、全市民を対象にした啓もう啓発資料の掲載や刊行をはじめ、市職員、教職員を対象にした研究会、研修会などを開催している。また、集会所を設置し、それを中心として同和問題の早期解決に努めている。</li> </ul>	
目標設定委員会として強調する理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 同和問題は、日本国民の基本的人権にかかわる問題であり、近代社会の原理として何びとにも保障されている市民的権利と自由が、完全に保障されていないという、最も深刻にして重大な社会問題である。このことはすべての人々の基本的人権についての認識と、人間としての生き方にかかわる問題であるという意味で重要なことである。</li> <li>○ 同和問題を解決するためには、市民一人ひとりが自らの生活と権利についての自覚をもち、すべての人々の基本的人権を尊重しなければならないという態度を育てることが大切である。そして、すべての人々が同和問題を自らの人権問題としてとらえ、その解決のために積極的に努力しなければ、この問題の早期解決は困難である。</li> <li>○ 両性の合意によって成立するはずの結婚が、部落差別の現実として問題になっている実態もみられる。「心豊かな人間性と連帯感あふれた地域社会の建設」を目指すとき、同和問題は、早急に解決を図らなければならない課題である。</li> <li>○ 以上のことから、同和問題の正しい理解と認識のもとに、あやまつた偏見として若い世代に伝えることなく、地域社会や家庭で正しく同和問題を教え、不合理な差別や偏見のない社会の実現に努めることが、壮年期から高齢期の人たちの重要な役割であり責任である。ここに強調されるべき教育目標として設定した。</li> </ul>	

## II 「足利市の教育目標」の解説

教育目標番号 42

子供の人格の基本となる望ましい性格を育てる。

目標達成の時期

壯 年 期

○ この目標の達成目標、具体策、目標達成の場とそのかかわりは 71~72 ページ参照

重点教育目標として取り上げた理由

観 点	解	説
足利市の地域性	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 足利市は、古くから繊維産業が中心となって栄えてきたまちである。昨今の不況でやや下降線をたどっているものの現在でも産業に占める割合は高くなっている。</li><li>○ したがって、一般家庭で行える内職など婦人が手軽にできる仕事が多く女性もよく働くまちである。</li><li>○ 両親が忙しく働いている家庭が比較的多いためか、日曜や祝祭日などは家族ぐるみでの行事をもつ家が多い。</li></ul>	
市民憲章との関連	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 市民憲章の「足利市は希望にみちたまちです。」—明るい家庭をつくり、次代をになう子どもに誇りと希望をもたせましょう。—に直接つながる目標である。</li></ul>	
市民の意識や実態	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 1次調査及び2次調査の結果では、「子供のしつけの中心は両親であり、親がまず手本を示さなければならない。」という市民の意識は高いが、実態は「母親にまかせきりである。」というように必ずしも一致してはいない。</li><li>○ 中間発表会のアンケート結果では、この目標の支持率は、52%と高く、壮年期の目標中第3位となっている。 また自由記述の中で、「幼児をもつ母親の教育、特に物を大切にする心を育てる。」「自分ばかりでなく、他人のことを思いやる心を育てる。」などの意見もある。</li><li>○ 中間報告会のアンケート結果でも、この目標の支持率は、45%で6位と高い。</li><li>○ また、意見を聞く会での意見では、「母親になるための準備の教育</li></ul>	

観 点	解	説
市民の意識や実態	が大切である。」「児童期までに、基本となる心情、性格、言動について正しく育成することが大切である。」「過保護、学歴、有名校病、受験戦争など、人生の最も大切な時期に、人間としてのしつけ、身の処し方などを学び、身につける機会を失っている。」などがある。	
行政等の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 親子の結びつきを深めるための各種事業を実施している。 (海の家の開設、親子ハイキングや水泳教室などのスポーツ行事、家庭の日の在り方等)</li> <li>○ 「しつけ60章」(栃木県教育委員会)などを活用しての家庭教育学級や幼児期相談事業、電話相談事業の開設、乳幼児をもつ若い母親のための学級の開設など、家庭におけるしつけの在り方や、育児の方法について啓もうしている。</li> <li>○ 広報紙「あしかがみ」を通して家庭教育についての広報活動に努めている。</li> <li>○ 愛の一聲運動、小さな親切運動など地域ぐるみで子供の望ましい育成を願った運動の推進が図られている。</li> </ul>	
目標設定委員会として強調する理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「三つ子の魂百までも」のたとえのように、子供の基本的な性格を決定的なものにするのが家庭教育である。</li> <li>○ 乳幼児期から児童期にかけては、心理的、社会的な方向づけを強く受ける最も可塑性に豊んだ時期であり、この間に基本的な生活習慣についてのしつけはほぼ完了すべきであるといわれている。</li> <li>○ これらの教育は主として両親が家庭で行うべきであるが、子育てに対する不安を抱いている親が多い。</li> <li>○ 親自らが子供の生活の鏡になる必要がある。</li> <li>○ 以上のことから、この目標は、人格の基本となる望ましい性格を身につけた子供を育てるために親として身につけるべきものである。ここに子育ての時期にある壮年期において強調されるべき教育目標として設定した。</li> </ul>	

## II 「足利市の教育目標」の解説

教育目標番号 43

職業人としての自己研修にたえず努める。

目標達成の時期

青年後期～壮年期

○ この目標の達成目標、具体策、目標達成の場とそのかかわりは 72～73ページ参照

### 重点教育目標として取り上げた理由

観 点	解	説
足利市の 地域性	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 足利市のイメージの一つとして、織維のまちをあげることができる。幾多の変遷はあるが、足利市は古くから両毛経済圏の織物のまちとして栄え、織維関連業を通して、広く市民生活に浸透している。 したがって、その産業の性格上、ファッションに代表されるように新しいものに対する鋭い感覚と積極的で進取の気質とに満ちて、活気のあるまちづくりをはぐくんできているといえる。そのため、女性の職場への進出が目立ち、生活でも経済優先の傾向がうかがえる。</li></ul>	
市民憲章 との関連	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 市民憲章においても「足利市は伸びゆくまちです。」—しごとを愛し、みんなの創意で時代の進歩に調和した活気のあるまちをつくりましょう。—に直接つながる目標である。</li></ul>	
市民の意 識や実態	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 1次調査及び2次調査の結果では、「企業内では、能力・適性に応じた研修の必要」を市民は、性別・地域にかかわりなく重視しているが、実態は低い。</li><li>○ 企業内において、経験年数の少ない者は、能力・適性に応じた研修を、経験年数の多い者は、職種に応じた研修の必要を市民は重視しているが、いずれも実態は低い。</li><li>○ 「職業を決定する際、能力・適性に応じた職業選択をしている。」については、実態はかなり低い。</li><li>○ 「職業人として、一般教養を身につける必要がある。」という市民の意識は低い。</li><li>○ 中間発表会のアンケート結果では、この目標の支持率は、23%で20位であり、意見を聞く会での支持率は29%で32位となってい</li></ul>	

観 点	解	説
	<p>る。</p> <p>また、その際の意見として、「模倣主義やおっつけ主義では、これからは通用しなくなる。眞のスペシャリストを各界に輩出させるような目標設定とリーダーシップが望まれる。」とか、「職業人として、やる気のある青年を育てたい。」などもある。</p>	
行政等の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 職業人の技能・資質の向上のために、「勤労者の表彰及び技能者ほう賞制度の充実」や「技能検定制度の普及と技能者の養成」に努めている。また、勤労者の福祉向上を図るために、労働福祉会館の建設推進と福祉施設の充実に努めている。</li> <li>○ また、市教委社会教育課において、企業労務担当者教育懇談会を開催し、企業との連携を図りながら職場リーダーの養成や余暇生活の充実などの勤労青少年教育の推進に努めている。</li> </ul>	
目標設定委員会として強調する理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 足利市を活気のあるまちとして支えている原動力の一つには、産業の発展があり、そこで働く人々の能力・技能は重視されなければならない。</li> <li>○ 現在の発展を築いた先人の成果を引き継ぎ、維持し、さらに発展させることは、足利市に住む職業人の使命であり、責務である。</li> <li>○ めまぐるしい技術革新に即応した技術開発、能力開発を推進し、資質の向上に努めなければならない。そのため、職種の多様化、多角化に応じた研修の機会を設ける必要がある。</li> <li>○ 以上のことから、就職年齢である青年後期から、職場の中堅となる壮年期において強調されるべき教育目標として設定した。</li> </ul>	

## II 「足利市の教育目標」の解説

教育目標番号 52 基礎的な知識や技能を習得し、自ら学びとる態度を身につける。

目標達成の時期 児童期～青年期

- この目標の達成目標、具体策、目標達成の場とそのかかわりは 83～86ページ参照

### 重点教育目標として取り上げた理由

観 点	解	説
足利市の地域性	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 足利市は、過去において産業にかかわる教育に力を入れてきたが、現在はさらに高校・大学等の教育機関が整備され、足利学校にふさわしい地域として活況を呈している。</li></ul>	
市民憲章との関連	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 市民憲章においても、「足利市は日本最古の学校のあるまちです。」――教養を深め、文化のかおり高いまちをつくり、すぐれた伝統を発展させましょう。――を支える基礎的な目標である。</li></ul>	
市民の意識や実態	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 1次調査及び2次調査の結果、読・書・算などの基礎的能力についての項目では、「相手の話をよく聞くこと、相手にわかるように話すこと。」については市民の意識は高いが、「整数・分数・小数の加減乗除ができること。」については意識が低く、市民の意識は内容によって異なっている。また、自ら学びとる態度に関する項目では、「学習課題を独立で解決しようと努めること。」についての意識は高い。自由記述では、「読・書・算の能力の向上を図る。」、「日常生活に必要な学力を身につける。」、「自分から進んで学習のできる子供を育成する。」、「創造性の育成を重視する。」などの意見もある。</li><li>○ 中間報告会のアンケート結果では、この目標の支持率は48%で5位である。また、意見を聴く会の意見として、「足利学校のあるまちにふさわしい中味がほしい。」、「産業面が中心になっていて教育面が少々低い。」などもある。</li></ul>	
行政等の取り組み	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 足利市では、豊かな創造力とたくましい実践力をもつ児童・生徒の育成を目指し、能力・適性に応じた質の高い学校教育を推進するため、</li></ul>	

観 点	解	説
行政等の取り組み	<p>学校教育指導計画を作成している。その中で、国民として必要な基本的資質を養い、創造性豊かな児童・生徒を育成するために「自ら学びとる能力と態度の育成」を指導の重点とし、学習指導の充実強化に努めている。</p> <p>また、昭和52年に学習指導要領が告示され、昭和55年度小学校、昭和56年度中学校が完全実施になるのを契機として、今回の改訂の趣旨をふまえた学校教育指導計画の検討・改善を図り、学校教育活動の具体的なよりどころとなるよう努力している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 一方、今回の改訂の趣旨が理解され、教育実践に十分生かされるように各種研修会を開催している。</li> </ul>	
目標設定委員会として強調する理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 今回の教育課程の基準の改善のねらいの一つとして、自ら考え正しく判断できる力をもつ児童・生徒の育成を重視し、「国民として必要とされる基礎的・基本的な内容を重視するとともに、児童・生徒の個性・能力に応じた教育が行われるようにすること。」が示されている。そして、改訂の基本方針の中で、「各教科の基礎的・基本的事項を確実に身につけるように教育内容を精選し、創造的な能力の育成を図ること。」が強調されている。これは、教育内容を基礎的・基本的事項に精選し、個々の児童・生徒の学習の理解度を高めるとともに、自ら考え学んでいく能力や態度の育成を図ることを重視しているわけである。</li> <li>○ 教育は、学校教育で完結されるものではないとする生涯学習の視点から、国民として必要な基礎的・基本的な知識・技能の習得や学習に対する喜びや楽しさを味わい、自ら考え学習する態度を身につけることは、次の学習への発展の素地を養う上から極めて大切なことである。</li> <li>○ 以上のことから、児童期・青年期において、生涯を通して学習するのに必要な知識や技能を確実に身につけるとともに、これらの学習を通して自ら学んでいく能力・態度を育成することは、特に重視すべきである。ここに強調されるべき教育目標として設定した。</li> </ul>	

## II 「足利市の教育目標」の解説

教育目標番号 61

ものを大切にし、資源を有効に活用することができる。

目標達成の時期

乳幼児期～高齢期

○ この目標の達成目標、具体策、目標達成の場とそのかかわりは 94～97 ページ参照

### 重点教育目標として取り上げた理由

観 点	解	説
足利市の地域性	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 足利市は繊維産業を中心とした商業都市として栄えてきたため、市民の消費生活が比較的派手であった。したがって、ものに感謝する気持ちにやや欠けるところがみられる。</li></ul>	
市民憲章との関連	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 市民憲章においても「足利市は伸びゆくまちです。」—しごとを愛し、みんなの創意で時代の進歩に調和した活気のあるまちをつくりましょう。—につながる目標である。</li></ul>	
市民の意識や実態	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 1次調査及び2次調査の結果では、「合理的な生活を営むために製品を大切に使用する。」といったことや「資源の育成を図る必要がある。」など市民の意識は高いが、実態は製品を買うとき、むだな買いかたをしている市民がやや多く、必ずしも高いとはいえない。</li><li>○ これに関する公聴会では、児童・生徒が物を大切にしない生活態度が指摘された。また、「家庭教育の中で親が身をもって物を大切にすることを実践していく態度が必要である。」など、人生各期にわたってその必要性が強調された。</li><li>○ 中間発表会のアンケート結果では、この目標の支持率は、人生各期によって多少差はあるが、壮年期が一番高く第10位である。 また、自由記述の中で、「乳幼児期のうちから物を大切にする習慣を身につけさせることが必要である。」「幼児をもつ母親の教育、特に物を大切にする心を育てる。」「子供や青年は、物を粗末にしすぎる。物を大切にする心を育てたい。」などの意見もあり、この目標に対して関心を示している市民が少くないことがうかがえる。</li></ul>	

観 点	解	説
行政等の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 使い捨て経済から節約、再利用への価値観の変化の中で賢い消費者を育てるために、 消費生活モニター制度 生活用品活用市 などを実施している。</li> <li>○ 太陽熱利用資金融資制度を設け、エネルギーの転換施策を推進する計画がある。</li> <li>○ 毎月、省エネルギーの日を設けて市職員を中心に啓もうしている。</li> <li>○ 物を大切にする運動の推進を図っている。</li> <li>○ 学校教育では、教育活動全体を通して行う道徳教育を中心として、物を大切にする態度の育成を図っている。</li> <li>○ 社会教育では、婦人学級などを中心に消費生活の見直しについての講座を設けている。</li> </ul>	
目標設定委員会として強調する理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 経済の低成長時代といわれる今日にあっては、物の価値が見直され大切に使う必要が再認識されてきてはいるものの、現実には「使い捨て」の風潮から脱し切れず、乱雑な使い方や浪費を気に止めない状況がみられる。このような状況の中では、物の価値を正しく知らせ、大事にするように導くことが特に大切である。</li> <li>○ エネルギー源を中心とする天然資源の不足は、今後ますます深刻になることが予想される中で、限りある資源を愛護し、大切にしていくことは極めて大切なことである。</li> <li>○ 「心の豊かさ」を備えた足利市民を育成したい。</li> <li>○ 以上のことから、特に物を大切にする習慣を身につけることが必要である乳幼児期・児童期及び青年期から、省エネルギーを核とした生活の実践をする壮年期、そして、省エネルギーの実践とともに、若い世代に指導できるようなリーダーシップをとってほしい高齢期において強調されるべき教育目標として設定した。</li> </ul>	

## II 「足利市の教育目標」の解説

**教育目標番号 67** 日本及び世界の国々に対する関心と理解を深め、国際社会に生きる日本人としての自覚を高める。

**目標達成の時期** **児童期～青年期**

○ この目標の達成目標、具体策、目標達成の場とそのかかわりは 103～105 ページ参照

**重点教育目標として取り上げた理由**

観点	解説
足利市の地域性	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 足利市は、産業との関係で世界各国との結びつきが比較的多い土地柄である。</li></ul>
市民憲章との関連	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 市民憲章においても、「足利市は伸びゆくまちです。」——しごとを愛し、みんなの創意で時代の進歩に調和した活気のあるまちをつくりましょう。——につながる目標である。</li></ul>
市民の意識や実態	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 1次調査及び2次調査の結果では、「国民としての自覚を高めるため、日本の地理や歴史を広い視野から学んでおくこと。」「よりよい社会をつくるため、日本を中心とする国際関係や国際問題を学んでおくこと。」「国際社会に生きる日本人としての自覚を高めるため、世界各国の地理や歴史を学んでおくこと。」についての市民の意識は極めて低い。また、「日本を中心とする国際関係、国際問題、世界各国の地理・歴史を学び、視野を広め、関心を高めること。」についての実態も極めて低い。自由記述では、「世界に活動できる日本人を積極的に教育する。」「国際的感覚を身につける教育をする。」「国際人としての日本人を育成する。」などの意見もある。</li><li>○ 中間発表会のアンケート結果では、この目標に対する支持率はかなり低くでている。</li><li>○ 中間報告会のアンケート結果では、この目標の支持率は 28% で 16 位であるが、意見を聞く会での支持率は 64% で、3 位である。 また、その際の意見として、「郷土愛、祖国愛を育成することが大切である。」「視野が広く、国際社会における日本人としての自覚のもてる人を育成したい。」「これからは、国際性を身につける必要がある。</li></ul>

観 点	解 説
	る。」などがある。
行政等の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 足利市は、中国、ブルガリア、オーストラリアなどとの交流を積極的に推進している。</li> <li>○ 足利ユネスコ協会では、昭和35年以来、青少年を対象として、毎年ユネスコ夏季学校を開催するなど、国際理解のための教育に努力している。</li> <li>○ 足利市では、文部省事業の一環として、毎年5名程度の教員を海外に派遣している。</li> <li>○ 県教委の教育行政努力目標に国際理解教育の推進をあげ、「高校生の海外派遣」、「国際理解のための高校生の集い」等を実施している。</li> <li>○ 国際協調の精神を育てるために、「栃木県青年の船」を実施しているが、足利市でも毎年15名程度の青年が参加している。また、青年海外協力隊として、開発途上国に対する協力・援助をするために、青年が参加している。</li> <li>○ 足利市の高校の中には、オーストラリア、マレーシアなどから交換学生や留学生がきて、共に学び、共に生活している学校もある。</li> </ul>
目標設定委員会として強調する理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 国際間の交流が激しく、社会の変動が目まぐるしい現代においては、市民の生活も日本のわくを越え、世界の各国の政治・経済・文化と直接・間接に結びつく面が強くなってきている。</li> <li>○ 「よき日本人はよき世界人であり、よき世界人はよき日本人である」という考え方方に立って、日本人としての自覚をもって国を愛し、国家の発展に尽くすとともに、国際社会において十分信頼と尊敬が得られるような日本人を育成することが必要である。</li> <li>○ 以上のことから、足利市民の意識や実態は低いが、国際社会に生きる日本人を育成することは極めて大切なことであり、その基礎的な資質を養うことが必要である児童期から青年期において強調されるべき教育目標として設定した。</li> </ul>